ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学　所属：国際日本学部　名前：鈴木 基伸　作成日：2026 年１月２７日

１．教育の責任

大手前大学が掲げる STUDY FOR LIFE という理念に則り、生涯にわたる学び、すなわち受動的ではなく能動的に「学ぶ」ことができる学生の育成に努めている。またここで言う「学び」とは、ただ単に知識を得ることではなく、自ら問いを立て、その問いに全力で取り組むことを指している。現状に決して満足せず、常に向上心を持って自らの「問い」に挑み続けられるような人材の育成が自らの「教育の責任」と考えている。

２．教育の理念

本学が掲げる使命として、「生涯にわたる学びの場の提供」「問題を他者と協働して解決する人材の育成」「地域発展に尽くし、国際社会に貢献する」がある。これらの使命を果たすことができるような人材の育成を自らの教育理念としている。言語学・日本語学という身近にありつつもなかなか触れることのないテーマから、自らが使用する言語や文化についての正確な知識を武器に、世界に通用するような人材の育成もまた同時に目標として掲げている。

３．教育の方法

（１）講義科目における学習目標達成の工夫

「日本語学入門」「日本語表現法」などのレベルナンバー100 の科目では、幅広いテーマを取り上げ、できるだけ身近で共感できるような具体例を提示することにより、学生の興味・関心をひくよう努めている。１年生の間はまだどのメジャーにするかが定まっていない学生が多い。そのような学生に対しては、極端にアカデミックなテーマよりも世俗的な話題の方が興味・関心を持ちやすく、それをきっかけに当該の分野を研究テーマとする可能性もある。またテーマについても一つのことを深掘りせず、できるだけたくさんの題材を扱うよう心がけている。一方、「日本語学研究」「日本語学演習」のようなレベルナンバー200 以上の科目では、専門領域における研究を意識し、最新の学術研究成果を取り入れるような形で講義を進めている。科目内容と学習者のレベルや求める知識等を考慮し、シラバス内容を離れない限りで、学習者に寄り添った授業運営を意識している。

（２）演習科目における学習目標達成の工夫

学びの道しるべ、ゼミナール、卒業研究等、明確な目標を設定し、成果物の提出が求められるような科目では、身近なゴールを設定し、それらを一つ一つこなしていくことで、最終的に大きなゴール（プレゼン発表や卒業論文）にたどり着けるような授業設計を心がけている。そしてそれらの授業計画をこなしていくことによって履修者自身に計画力・行動力が身に着き、社会人基礎力の一部が向上することを期待している。

４．教育の成果

授業アンケートの結果を見ると、レベルナンバー100 の科目では「授業への評価」で「この授業内容をさらに勉強したいという意欲がわきましたか？」という質問に対する回答がいずれも平均値を上回っていた。これにより、１年生を対象とした科目では「学生の興味・関心をひく」という主たる目標が達成できたということがわかる。

またレベルナンバー200 以上の科目では、論理的思考力、分析力が伸びたという回答が多かった。これは、よりレベルナンバー100 の科目よりもよりアカデミックな内容にして学習者に考え、分析するという癖をつけさせることができたからだと考える。また４年生の卒業研究においては、今年度も幅広い分野から興味深いテーマの卒業論文が提出される予定である。

５．改善への努力と今後の目標

本学の建学の精神や使命に則り、社会人基礎力を身に付けた、実践力を伴った人材の育成を目指している。そのような人材を育てるためには、１年生から４年生までトータルでどのような教育を行うのかということを常に考える必要がある。そのために、各学年において教育方針を変え、柔軟な授業運営・教育の実践を心がけている。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学　所属：国際日本学部　名前：鈴木 基伸　作成日：2026 年１月２７日

【添付資料】

・各科目のシラバス（Universal Passport 参照）